

うわべの言葉を並べるより、  
心の込もった一言を

---

巧言令色、鮮すくなし仁じん

巧言令色、鮮矣仁（学而第一）

---

論語の「剛毅木訥、仁に近し」という教えでは、ベラベラとおしゃべりをするのは、あまり誠実なものではないと指摘しています。どんなに言葉巧みにしゃべっても、うわべだけであれば意味がないということです。取り繕った言葉に、真心はありません。それは聞いている人にも伝わってしまいます。

自分の思いを相手に届けたいのなら、余計な飾り立てをせず伝えましょう。「伝えたい」という誠実な気持ちで話せば、シンプルな言葉でも十分に届きます。そんなあなたの姿勢に、周りの人は信頼を抱き、丁寧に耳を傾けてくれるようになるでしょう。きれいな言葉より、思いの強さが人を動かすのです。